

1. 学校名 対象 (学年、人数)

長野県長野市立信里小学校 3・4 学年 9 名

2. 探究課題・活動実践の概要、ねらい、目標等

(1) 活動テーマ

里山の命のつながり～シナイモツゴ学習から学んだこと～

(2) 目 標

- ・シナイモツゴ学習を通して、シナイモツゴが生息するにはため池が必要であることを知る。
- ・教室の水槽でシナイモツゴを育てることで、身近な存在として関わっていく。
- ・命と向き合う活動を通して、その大切さを知る。

(3) ESD の視点、育成する資質・能力

①構成概念

- | | |
|---|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 多様性 (多種多様な現象が起きていること) | <input type="checkbox"/> 公平性 (一人ひとりを大切に) |
| <input checked="" type="checkbox"/> 相互性 (関わりあっている) | <input checked="" type="checkbox"/> 連携性 (互いに連携・協力すること) |
| <input checked="" type="checkbox"/> 有限性 (限りがある) | <input checked="" type="checkbox"/> 責任制 (責任を持って) |
| <input type="checkbox"/> その他 () | |

②育成する資質・能力

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 批判的に考える力 | <input checked="" type="checkbox"/> 他者と協力する力 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 未来像を予測して計画を立てる力 | <input checked="" type="checkbox"/> つながりを尊重する態度 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 多面的・総合的に考える力 | <input checked="" type="checkbox"/> 進んで参加する態度 |
| <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーションを行う力 | |

(4) 関連する SDG s



(5) 探究課題・活動実践の概要 (指導計画の概略を含む)

① シナイモツゴについて知ろう。

(昨年学習している 4 年生に聞いたり、タブレットで調べたりする)

- ・昔はため池に多くいたが、モツゴへの置き換わり、生息環境の悪化などにより、絶滅危惧種となる。
- ・信里のシナイモツゴもだんだんと減ってきている。

② シナイモツゴのたまごを見つけよう。

(信州大学の先生と一緒に学校の池や近くのため池を観察)

- ・池に行き、シナイモツゴのたまごを探す。
- ・たまごを産みやすい場所を知る。水面に浮く、広くてツルツルした場所 (袋や水草の裏側) にたまごを産むことを知る。
- ・顕微鏡でたまごを観察。たまごの色の違いによって稚魚の有無がわかることを知る。

③ 稚魚を育てよう。

- ・たまごから孵った稚魚を育てる。育てることの難しさを知る。
- ・稚魚と成魚を比べ、違いを見つける。
- ・大きくなった稚魚を成魚の住む、水槽に移すために、成魚の放流を決める。

④ 成魚の放流に向け、池に住むザリガニを駆除する

- ・池のザリガニを捕まえる。ザリガニの大きさをはかる。
- ・捕まえたザリガニを肥料にする。鉢に入れ、花の苗を植える。

3. 効果・反応・所感

3・4年生の子どもたちは里山の自然を生かした活動を通して、豊かな自然やそこにくらすシナイモツゴは、貴重な信里の財産であることを実感している。本年度はシナイモツゴの稚魚の孵化に成功したこと、ザリガニの駆除に取り組んだことを通して、命と向き合うことができ、その儚さや大切さを改めて感じる事ができた。そしてシナイモツゴが住み続けられる環境を守るために、さらにできることはないかと考え始めている。この体験を通して学校目標『信里を語る子ども』の素地を作る活動ができた。

4. 指導方法・体制の工夫（協力者や資源）

【資源】 信里小学校周辺の田畑・ため池・森林

【協力者】シナイモツゴ学習 中野先生(信州大学)ザリガニの肥料化学習 古賀先生(ぽんすけ育成会)